

第4回琴浦町地方創生推進会議（結果）

日時：平成27年7月25日（木）19:00～21:00

場所：本庁舎 防災会議室

1. 参加者	委員20人、事務局4人、米田コンシェルジュ、管理職員7人
2. 欠席者	杉山委員、光本委員、朝倉委員、小野委員、御古委員
3. 内容	<p>●会長 ○委員 →事務局</p> <p>委員の変更について 琴浦町農業青年会議から委員の変更の申し出があり、前田委員に変更となったことを報告。</p> <p>① 琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像（案）について 町民との意見交換会、これまでの推進会議での意見をもとに総合戦略の全体像（案）を作成。 → 本日の推進会議で、この全体像の各事業についての検討をお願いしたい。</p> <p>② 総合戦略全体像等についての意見交換 4つのグループで意見交換を実施</p> <p>③ 各グループより意見発表・まとめ</p> <p>「育む」グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出会いと結婚の希望をかなえる テーマを決めて定期的で開催したり、さまざまな団体が事業を実施など、一時的な盛り上がりでなく、継続的に対策をしていくことが必要。 婚活事業のとりまとめを行う組織があればいいのでは。 ・子どもを産み育てやすい町づくりの実現 さまざま給付金が検討されているが、一時的な助成よりは保育料、医療費、給食費などに対し定期的な助成のほうが子育て世代の負担は軽減される。 産後ヘルパー利用に対する助成、発達支援コーディネーターの配置などの取り組みはすばらしい。 病後の児童に対しても充実した支援があれば負担が減る。 育児ボランティア事業は地域で子どもを育てる環境が促進される。 ・ふるさとを愛する教育の充実 ことうらの自然の中で親子一緒に体験できるような事業であれば参加者も増える。また、それらのPR方法も検討が必要。 <p>「創る」グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の恵みからなる農林水産業の振興 遊休農地の減少には売れるものをつくる必要があり、そうした儲かる農業への取り組みが必要。 新規就農者などに対し、農地のマッチングができれば就農者もふえるのでは。 農業は初期投資が大きいので、モデル農園に就農し、数年後にリースで借り受けるような体制であれば負担も少なく就農しやすい。 芝、畜産への取り組みはぜひ行ってほしい。

農業に関する技術の習得は短い期間でできないので検討が必要。

- ・ 地元産業の発展と新たな展開
琴浦にはいい商品が多くあるが、関東圏にはコストがかかってしまうので、混載できるようなしくみづくりに取り組んでほしい。
販路開拓については今後も必要である。
牛乳だけでなくほかの食もどんどんPRした方がいい。
- ・ 魅力ある仕事の創出
起業支援もひとつの方法であるが、チャレンジショップなどで半年間程度経験することがより起業につながるのではないか。
- ・ 新たなしごとの創造
エネルギー事業については、町としてどのようにしていくのかの方針が必要となる。
ペレットを活用することでまちの活性化につながるようにする。

「輝く」グループ

- ・ 豊かな自然と文化を生かした観光振興
伝統料理の定義が絞りきれていないので、人に焦点を当てる。
体験型観光と食を結びつけるのはいいアイデアである。
光集落内に、鰻絵関連のグッズを作製しショップで販売。鰻絵の体験も取り入れ観光客をふやす。
ポート赤碕で開催される「海鮮祭り」は人気も高く、水産振興の観点からも続けていく。
琴浦町でショートステイを受け入れ、町の自然などをより深く感じられる機会を作る。
ことうらの産物をまとめて販売する場所又はサイトなどを活用する。

「根づく」グループ

- ・ 若者の IJU ターン
空き家は多くあるが住めるものが少ないので整備を行いつつでも貸し出しができるようにしておく。
新築住宅に対する助成は移住定住促進のひとつの策であり他町村でも実施しているので琴浦町でも実施したほうがいい。
宅地情報の提供は必要である。
13歳のハローワーク事業は現在も職場体験を行っているので必要ない。
町内の企業紹介では、フェイスブックなどを活用して行う。
職業紹介所開設は琴浦町のハローワークとして取り組んでいく。
琴浦町での合同説明会や、県内就職情報の提供は町単独でなく県などの広域で行ったほうがよい。
ふるさとレター便では、手紙よりメールなどを活用したほうがよい。
- ・ 安心・安全で暮らせるまちづくり
障がい者や高齢者にはバス無料などの対策が必要。
乗り合い事業について、事故等の対策が必要であるので検討が必要。
図書館で行政情報を提供するの、図書館のほうが行きやすい人もいるので実施したほうがいい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・退職世代の移住・定住の希望の実現 コトウラ CCRC は必要ない。 ・健康長寿日本一を目指すまちづくり 総合公園を安心してウォーキングできるよう整備 商品券などの交付は必要ない。 生涯健康づくり事業、健康長寿日本一事業、いずれ行く道、いまからできる、まだ間にあう事業、おじいちゃん、おばあちゃんとふれあおう事業はぜひ取り組んでほしい。 ・ その他 同窓会応援事業で、ふるさとのPRは必要だが、1,000 円の助成は必要ない。 役場ワンストップ窓口、アンケート調査 すぐにでも実施したほうがいい。
	<p>今後のスケジュールについて → 今出ている事業を役場内で再度検討し、8月下旬の推進会議で全体で討論していただきたい。</p> <p>次回日程について →8月25日（火）19：00 から防災会議室で開催する。</p> <p>21：00 終了</p>